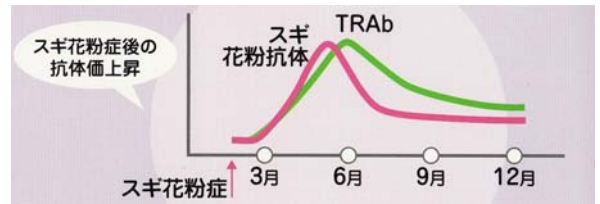


花粉症とバセドウ病

バセドウ病になるとほとんどの人で甲状腺ホルモンが過剰となり「イライラ」「動悸」「疲れやすい」など様々な症状が現れます。

甲状腺ホルモンが過剰となる原因は TSH レセプター抗体 (TRAb) という抗体が血中で増加するため、この増加した TRAb が甲状腺を刺激しホルモンを過剰分泌させます。

また TRAb は花粉症発症から 2～3 ヶ月後に上昇することがあり花粉症によりバセドウ病の再発が高まることが報告されています。(右図)



以上のようにバセドウ病と花粉症には密接な関係があると考えられ、花粉症発症後に「イライラ」「動悸」「疲れやすい」などの症状が見られた場合には TRAb の測定をお勧めします。

亜鉛欠乏症について

亜鉛欠乏症は臭覚障害、慢性下痢、貧血、口角炎、アフタ性口内炎、掻痒を伴う角化性皮疹、水疱性皮疹、舌咽頭症状、味覚障害、褥瘡、食欲不振」など多彩な症状を示します。

血清亜鉛濃度が低く、亜鉛欠乏が疑われ、上記の臨床症状が認められた場合には、亜鉛投与により臨床症状が改善するか否かの治療的診断法がもっとも有用であるとされています。亜鉛の補充量としては、通常硫酸亜鉛として 300mg を投与します。最近では亜鉛含有製剤があり、1 日 1g 服用で補充が可能です。

亜鉛欠乏症は、しばしば QOL の低下を伴うため亜鉛欠乏を検出し、亜鉛補充療法を行うことは、患者様の QOL 向上につながります。

血清亜鉛検体検査実施料
150点

体内の亜鉛が欠乏することによって、様々な症状が引き起こされることが確認されています。

(「田部井薫. 検査データの読み方・考え方のポイント-亜鉛」より)

検査項目名	材料	検査方法	実施料/判断料	所要日数
血清亜鉛	血清	原子吸光法	150 点/生化 I	5～7 日